

学校教育目標

○進んで学習する子 ○思いやりのある子 ○からだを大切にする子

研究主題

「学びに向かう力、人間性等」を育む授業づくり
～学びの実感が得られる授業～

主題設定の理由

- ・興味・関心から自己に必要な課題を見付け、主体的に学びを高めていくため。
- ・学習過程を理解し、対話的学びを通して自己の学習方法を精査できるようにするため。
- ・学習活動から自己を振り返り、深い学びを通して考えを広げたり深めたりできるようにするため。

身に付けさせたい力

- 見通す力
- 調整する力
- 振り返る力

目指す児童像

低学年

学びを楽しむ児童

中学年

粘り強く挑戦する児童

高学年

自ら課題を解決する児童

<手だて>

①めあてと振り返りの工夫

- ・振り返りから出た言葉を基にして、次時のめあてを作成することで、学習への意欲付けをする。
- ・活動の途中でめあてに立ち戻ることで、学習のゴールを意識させる。

②学習計画の工夫

- ・教師モデルを提示することで、単元の見通しをもたせる。
- ・学習計画を提示し共有することで、児童の学習に見通しをもたせる。

①事象提示の工夫

- ・身の回りの事象を提示することで、興味をもって学習課題を見いだせるようにする。
- ・前単元の取組が分かるように、教室掲示することで学習への意欲付けをする。

②粘り強く取り組む工夫

- ・あらかじめ準備された実験セットを使い、多様な予想と結果から十分に思考させる。

③学習の流れの工夫

- ・学習の流れを掲示しておくことで、自分がどの段階にいるか常に立ち返れるようにする。

①自己の課題を見付ける工夫

- ・動画撮影や学習の振り返りをする中で、自己の課題を明確にさせる。

②課題解決のための時間を設ける工夫

- ・〇〇タイムを設定することで、課題解決に向けた話し合いの時間を確保する。
- ・ポイントを伝え合う時間を設定することで、課題解決の方法を考えさせる。

③学習意欲を向上させる工夫

- ・単元のゴールを提示することで、見通しをもって学習に取り組ませる。

研究主題

「学びに向かう力、人間性等」を育む授業づくり
～学びの実感が得られる授業～

本日の予定

13:35	授業開始
14:20	授業終了
14:35	研究発表開始
15:40	研究発表終了

指導案等はこちら↓

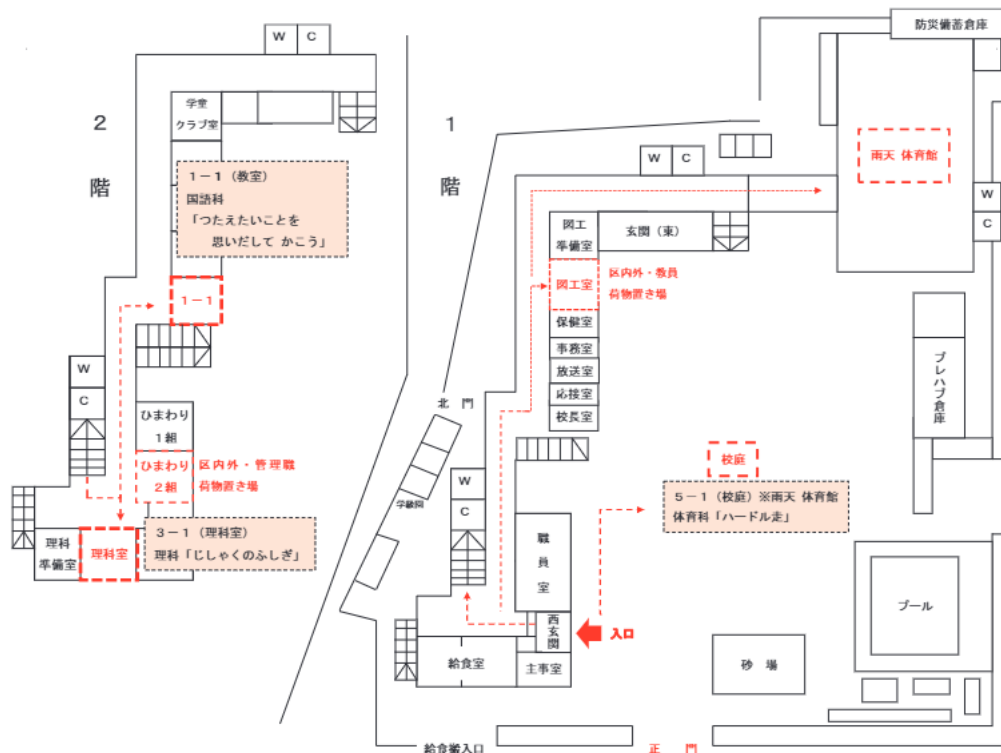


荷物置き場

2階	ひまわり学級	区内外・管理職
1階	図工室	区内外・教員

授業会場

階	場所	単元名
2階	1-1教室	第1学年 国語科「つたえたいことを 思いだして かこう」
	理科室	第3学年 理科「じしゃくのふしぎ」
屋外	校庭（雨天時：体育館）	第5学年 体育科「ハードル走」



手だて

① 自己の課題を見付ける工夫

- ・動画撮影し、互いに見合うことで、自分では気付かない自己の課題を見付ける。
- ・ワークシートで授業内容（ポイント）を振り返ることで、自己の課題を明確にし、次時の課題へと繋げる。

② 課題解決するための時間の工夫

- ・課題解決に必要な具体的な練習方法を提示することで、児童が自らの課題の解決方法を工夫できるようにする。
- ・自分に合った練習を選択し、取り組む時間として YELLタイムを設定する。
- ・同じ課題をもった友達同士でグループを組むことで、ポイントを見合い具体的なアドバイスをできるようにする。

③ 学習意欲向上の工夫

- ・児童全員の最終ゴールとして一寺陸上を設定することで、目的意識を持って学習に取り組むことができるようにする。
- ・動画撮影を通して、互いの良かったところを見付け合い、自信に繋がれるようにする。

第5学年

単元名 C 陸上運動 イ「ハードル走」
「スピードにのろう」 一寺ハードル走

成果

- ①学習プロセスを振り返るワークシートを作成し、積み上げたことで自己の課題を主体的に捉えられる児童が増えた。
- ②同じ課題をもった友達同士でグループを組むことで、ポイントを見合い具体的なアドバイスができるようになった。

課題

- ①手本となる映像をいつでも振り返られる場として設定する。
- ②技術の向上のための練習方法を厳選する。



中学年分科会 理科

手だて

① 事象提示の工夫

- ・児童が疑問をもてるように事象提示を工夫することで、児童が問題を作って解決できるようにする。

② 学習の流れの工夫

- ・学習の流れを確立することで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。

第3学年

単元名 磁石の性質
「じしゃくのふしぎ」

成果

- ①身の回りの事象を提示することで、事象に興味をもち、児童が学習課題を自ら見いだせるようになった。
- ②学習の流れを掲示しておくことで、自分がどの段階にいるのかわかりやすく立ち戻ることができた。

課題

- ①磁石がつか、つかないかだけでなく、結果を再確認したり、粘り強く実験をしたり、課題解決に向けて粘り強く取り組む方法を設定する。



低学年分科会 国語科

手だて

① めあてと振り返りの工夫

- ・児童の言葉をもとにめあてをたて、学習内容を理解させる。また、学習の途中でめあてに立ち戻り、自己の学習状況を把握できるようにする。
- ・児童の発達段階を考慮し、記号による自己評価（◎：よくできた ○：できた △：もう少し）をすることで、自己を振り返り次の課題を設定できるようにする。

② 学習計画の工夫

- ・授業のはじめに学習計画を提示することで、児童に活動の見通しをもたせ主体的な学びに取り組ませる。

第1学年

単元名 おはなしのせかいをそぞろしておんどくしょう
教材名 「おおきなかぶ」（6/29（水）実施）

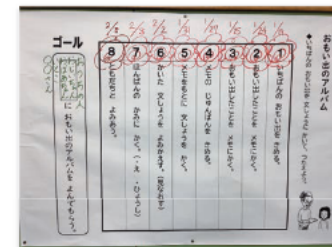
単元名 つたえたいことをおもい出しかこう
教材名 「おもい出のアルバム」（1/24（火）実施）

成果

- ①記号で自己評価することにより、全ての児童が学習活動に対して自らを評価することができた。
- ②授業のはじめに学習計画表を提示することにより、本時の学習内容を理解したり、単元全体を見通したりすることができた。

課題

- ①教員側の評価の基準と児童の評価の基準を合致させる。また、記述欄を設けたことで文章化して自己を振り返ることができない児童もいたため、工夫した評価方法を設定する。



令和4年度

成果

- 【児童】
 - ・学習の目的を理解し、見通しを持って学習に取り組む児童が増えてきた。
 - ・学習の振り返りから次時のめあてを立てることで、児童が主体的に学ぶ姿が見られた。
- 【教師】
 - ・教科を限定しなかったことで、各教科からの視点で「学びに向かう力、人間性等」についての理解を深めることができた。

課題

- ・児童の変容をどのように見取るか、「学びに向かう力、人間性等」についての具体的な評価方法を設定する。授業中の発言や行動、振り返りの内容等の視点を定め、年間を通して評価をする。